

視聴覚センター・ライブラリー担当者オンライン交流会  
テーマ：16ミリ映写機操作講習会の現状と今後の方向性  
日時：2023年9月19日（火）14時から15時30分

進行：全国視聴覚教育連盟丸山副専門委員長（新潟県五泉市立愛宕小学校）  
事例報告：全国視聴覚教育連盟山本専門委員（岩手県教育委員会事務局盛岡教育事務所）  
事例報告：全国視聴覚教育連盟小柳専門委員（栃木県視聴覚教育連盟・栃木県総合教育センター）  
助言者：群馬大学教職大学院客員教授

## 1) 開会

○進行：丸山副専門委員長

皆さんこんにちは。定刻になりましたので、これより視聴覚センター・ライブラリー担当者オンライン交流会を始めます。私は司会進行役を仰せつかりました、全国視聴覚教育連盟の副専門委員長、普段は新潟県の五泉市にありません愛宕小学校に勤務しております、丸山裕輔と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私からオンライン交流会の最初のお話をさせていただきます。今回の交流会はテーマとして、16ミリ映写機操作講習会の現状と今後の方向性を設定いたしました。

16ミリ映写機操作講習会については、16ミリ映写機そのもの、またはフィルムを取り巻くいろいろな課題がございまして、私も実は新潟県の視聴覚センターに勤めたことがあるのですが、その長所と、そして現在のちょっと困っているところも数多く出ている現状かと思えます。

今日は全国各地から大勢の皆様方が平日の午後にもかかわらずご参加いただきどうもありがとうございました。今日の交流会には助言者として群馬大学教授の立見康彦先生をお迎えすることができました。どうぞよろしくお願いいたします。立見先生につきましては、月刊誌の視聴覚教育の記事ですとか、全視連の視聴覚教育時報に記事等が出ておられまして、私も拝読して学ばせていただいています。

立見先生は、毎年、16ミリ映写機操作講習会の講師役、またはご講演者として、いろいろなところで活躍されています。今日のテーマに本当にまさしくぴったりの助言者を迎えることができたというふうに全視連の事務局ともども喜んでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず会の流れなんですけれども、この後、全国各地のセンターで活躍されています、お二人の全国視聴覚教育連盟専門委員の方々から事例報告をそれぞれ10分程度いただきたいと思えます。お一人は山本委員さんです。もう一人が小柳委員です。それぞれの事例を報告いただきまして、私たちも共に学んでいきたいと思っております。その事例報告2件が終わりましたら、その後立見先生からご助言をいただきます。

このようにたくさんの参加者に今回お集まりいただいたということで、事務局の佐藤様を中心にご苦勞をいただきまして、事前にすでに質問事項を立見先生にお伝えしてありますので、立見先生から助言をいただきたいと思っております。また現在このようにオンラインでやっている一つのメリットが、チャットも利用できるということですので、もしこの会の途中でもチャット等で質問等がありましたらチャットでお伝えいただけたらと思えます。この会の中でご回答できなくても、何らかの方法でまたご回答申し上げるような仕組みを事務局ともども考えておりますので、よろしくお願いいたします。それでは早速事例報告をいただきます。その中で自己紹介を入れていただきたいと思えますし、本来ならば皆様方お一人お一人の自己紹介をいただきたいところなんですけれども、時間の関係で省かせていただきます。失礼をお許しいただきたいと思えます。それでは最初の事例報告を山本専門員様よろしくお願いたします。



## 2) 事例報告 1

○報告者：山本専門委員

事例報告の内容としまして、はじめに岩手県の視聴覚教育関連の組織について、続いて盛岡教育事務所の 16 ミリ映写機操作技術講習会の現状と近隣地域の現状について、最後に中央地域視聴覚ライブラリーの現状をご報告いたします。岩手県の視聴覚教育関連の組織は、地域視聴覚教育協議会というところが 2 か所。それから市町村が設置する、公立視聴覚教育施設が 11 か所。県の視聴覚教育施設が 1 か所設置されています。これらの施設がスムーズに連携協働し、本県の視聴覚教育の振興に寄与するために、岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会が設置されています。県として組織的に運営されています。



続いて、盛岡教育事務所の 16 ミリ映写機技術講習会の現状についてご説明いたします。盛岡教育事務所は事務所に岩手県中央地域視聴覚ライブラリーがあります。今背景をご覧になってわかるかと思いますが、フィルムがたくさんあって、ここに全てのフィルムや VHS 等が保管されているところがございます。この職員が 16 ミリ映写機操作技術講習会を企画運営しております。年に 3 回です。2～3 回管内の各市町を回り、1 日開催で実施しており、講師の先生は毎回同じ方をお願いをしています。

岩手県では地域視聴覚教育協議会連絡協議会が、16 ミリ映写機操作技術の手引きを発行しております。講師の先生が監修したものになりますが、講習会の内容については、この手引きと講師の先生が所有している 16 ミリ映写機の部品の実物を用いながら、前半部分では基本的な仕組みと操作方法の講義を行い、後半部分では映写機の操作技術の実習を行っております。そして、研修会の最後に実技と筆記の検定ということになり、検定に合格すると後日修了証が受講者の手元に届くという形になっております。

私たち社会教育主事は実習と実技検定のサポートとして参加させていただいております。受講する方々は平均して 10 名程度で、年間 3 回ですので 30 名ほどになっております。所属は図書館職員、幼稚園保育園の職員、公民館職員、児童センターの厚生員などで、それぞれの職場で映画会を開くために受講されている方が多いです。中には 30 年以上前に受講したが手順を忘れてしまったとか、今度映画会を開くことになったので、もう一度受講させてもらえないかという方もいらっしゃいました。また、映画会前に操作手順の確認をしたいということで、実技のみの受講、もしくはこちらのライブラリーに直接練習に来るといった方もいらっしゃいます。

次に盛岡教育事務所以外の 5 つの教育事務所から 16 ミリ映写機操作技術講習会について情報を寄せていただきました。地域や事務所ごとに実情は様々で、技術講習会を開催していないところもあります。市町村の公立視聴覚教育施設が開催して、事務所は共催というような形のところ、それから事務所の社会教育主事が講師となって事務所単位で講習会を開いているところもあります。

最後に中央地域視聴覚ライブラリーの現状をご説明いたします。中央地域視聴覚ライブラリーでは、16 ミリフィルムが 1,168 本、DVD が 332 本、VHS は 88 本所有しており、無料で貸し出しをしております。映写機自体も無料で借りることができます。令和 4 年度の 16 ミリフィルムの貸し出し状況についてですが、貸し出し回数は 1,502 回、貸し出し本数 288 本、視聴人数は 4,355 人となっています。コロナ感染症の影響もあったせいか、貸し出し回数、貸し出し本数、視聴人数ともに前年度の令和 3 年度を下回っております。また、新型コロナウイルス感染症が流行る前の令和元年に比べると、令和 4 年度は約半数まで減少しているということになります。今年度、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことにより、貸し出し状況が良くなることを期待しているところです。また、中央地域視聴覚ライブラリーでは、映写ボランティアも登録いただいております。現在 10 名ほど在籍しており、映画会を開きたいが 16 ミリ映写機の操作資格がないという方のために、映写ボランティアの派遣も行なっております。特に子ども会や老人施設等で映画会を開催するときには、資格保有者が少ないということで、映写ボランティアの存在は不可欠となっております。ただ、映写ボランティアの方々も高齢となっていますので、登録者数の増加を目指し、募集活動に力を入れているところです。

映写機のメンテナンスについては毎年行っています。業者に依頼していたのですが、その方が高齢で今後、どうするか検討中でございます。

16 ミリ映写機による映画会は DVD の上映にはない、独特の雰囲気があり、根強い人気があります。また、最近ではレトロブームが再燃し、レコードやインスタントカメラが若者の間で流行ってきているとも聞いてい



ます。昔からのフィルムファンを大切にしつつ、若い人たちにも発信することで、より多くの方々に 16 ミリ映写機による映画を見て魅力を感じていただき、興味を持っていただくことが大切だと考えております。また、特に盛岡市は映画の町盛岡とも言われており、市は魅力向上のため映画を活用した事業に取り組んでおります。街中で行われる予定の 16 ミリフィルムの上映会には私たち中央地域視聴覚ライブラリーのスタッフも参加し、運営のお手伝いをする予定でおります。ニューヨークタイムズが掲載した。今年行くべき 52 カ所の旅行先の第 2 位に選出された盛岡人気を追い風にして、できるだけ多くの方々に 16 ミリフィルムを知っていただける取り組みを積極的に行いたいと考えております。

以上で報告を終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

#### ○進行：丸山副専門委員長

山本さんどうもありがとうございました。懇切丁寧に状況を説明していただき、また映画の街盛岡もお話ししていただきましてありがとうございました。後ほど意見交流の時間がありますので、山本様にご質問がある方はまたそこで設定させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

続きまして、小柳専門委員さんからお願いします。

### 3) 事例報告 2

#### ○報告者：小柳専門委員

私は栃木県視聴覚教育連盟事務局を担当しております小柳と申します。栃木県視聴覚教育連盟は、栃木県総合教育センター生涯学習部の中にあります。栃木県総合教育センター生涯学習部は、主に社会教育、生涯学習関係の研修や学習機会の提供、それから学習相談、情報提供、調査研究、そして市町・学校・団体等への支援など、各種いろいろな業務を行っています。その中で、栃木県の視聴覚ライブラリーの運営、あるいは栃木県視聴覚教育連盟事務局の運営などに携わっていて、私が今年度の担当となります。



栃木県視聴覚教育連盟は、主に取り組んでいることとして、視聴覚教育に関する調査研究として資料の作成、配布及び優良教材教具の紹介、また研究会あるいは講習会の開催を行っています。栃木県視聴覚教育連盟の主な活動としては自作視聴覚教材コンクールを行っていましたが、応募作品の減少により昨年度いっぱい終了となりました。そして、新規事業として動画作成講座を新たに立ち上げて取り組んでいるところです。また、県内の視聴覚ライブラリーは、県内 6 つの市町の視聴覚ライブラリーおよび県の視聴覚ライブラリーの 7 つで構成されています。

16 ミリ映写機については、技術指導者研修を 2 年に一度取り組んでいるところです。今年度開催の年になっており、すでに今年の 5 月 11 日に終了しています。この 16 ミリ技術指導者研修は、市町で 16 ミリ技術講習会を実施するための指導者の養成を行っています。主な内容としては、16 ミリ映写機講習会の企画運営について学び、また 16 ミリ映写機の操作実習や「24 コマの雨」という DVD 視聴を通して、実際に講習会で指導すべきポイントの確認をしたり、あるいは指導者同士で情報交換をしたりするもので、より良い講習会の実施に向けて研修を行っています。

共有画面が、実際に講習会をやっている様子の写真になります。研修受講者には研修修了の修了証を発行して、実際に講習会に携わるために役立てて

いただいております。また、16 ミリ映写機技術者養成につきましては、先ほど申し上げたとおり市町 6 つのライブラリーがありますが、現在は宇都宮市立視聴覚ライブラリーと、下都賀地区視聴覚ライブラリーの 2 か所で行っています。講習会を行って、実際に技術者養成を行っております。共有画面が、実際に養成している状況になります。令和 4 年度は 31 名養成し、例年おおむね 30 人から 40 人の間ぐらいで養成者が推移しています。

県内で一番大きいライブラリーが宇都宮市立視聴覚ライブラリーです。宇都宮市の視

- ・ 16 ミリ映写機技術者として、ボランティアと協力して講習会や上映会を実施したいと思う。
- ・ 受講者同士のつながりをつくることができた、意義ある研修だった。



聴覚ライブラリーでは、先ほど申し上げた講習会がご覧のように今年度も6月25日にすでに実施されております。先ほど私どもの指導者養成が5月11日で、こちらで受けた研修の内容をもとに、6月のこの講習会の実施につながっています。また、その他にも宇都宮市では16ミリ映写機技術者再講習ということで、資格を持っている方に再び学んでいただく機会なども設けています。また、宇都宮市視聴覚ライブラリーでは映画会も定期的実施しており、名画鑑賞会、日本映画劇場、20世紀名画座映画会、出前映画会など積極的に取り組んでいらっしゃいます。この映画会の実施にあたっては、宇都宮映写ボランティアの会という16ミリ映写機技術者養成講習会を受講した市民が組織化されて、映画会の運営の補助にもあたっています。

ホームページにもあるように、令和2年3月末現在で55人の会員がおり、私も宇都宮で資格を取ったので、実際にボランティアの方とお話しさせていただき、すごく情熱があって、生き生きと活動されている様子を拝見しました。また、映画会にも一度だけ行かせていただいたんですが、宇都宮市の視聴覚ライブラリーの方と連携協力しながら進めている様子なども拝見し、良い形で視聴覚教育を進めていることを感じています。

県の視聴覚ライブラリーですが、事前にリマインドメール等でいただいている、皆様から上がっている課題と同じような課題を私たちも持っているところです。共有画面は県の視聴覚ライブラリーの利用状況の推移なのですが、ほとんどがDVD教材で、16ミリフィルムの貸し出し自体は社会教育における2件のみと、非常に厳しい状況となっています。ですが、先ほど岩手の方の実際報告にもありましたとおり、16ミリフィルムの良さもありますし、私どももできる限りライブラリー機能をしっかりと機能させて、より活性化につなげていければというように考えているところです。

また、映写機の修理等についてですけれども、故障している16ミリフィルム映写機についても集めて保管しております。部品取りがいつでもできるように、県内各地からも情報があれば集めて保管しております。この後どういう形でつなげられるかということまでは、なかなかまだ見通せていないところもあるのですが、部品自体が作られていないという現状もありますので、このような対応しているところです。また、代替等ができるものについても考えながら動いているところになります。

各ライブラリーですけれども、共有画面のように16ミリフィルムは県内では53,001点の保有。それから16ミリ映写機も34台現在稼働しています。私も視聴覚教育の担当になって、まだ半年というところにいる勉強させていただいているところです。本交流会の参加を通じて、私自身もいろいろ学んでいけたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。栃木県からの報告は以上になります。

#### ○進行：丸山副専門委員長

小柳様どうもありがとうございました。懇切丁寧にご説明いただき、課題の整理、映写機のメンテナンスにも触れていただいて、この後の意見交流にもつながると思っております。小柳先生の事例報告に関する質問をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、また後ほど意見交流の場でお聞かせいただけたらと思います。それでは、今ほどのお二人の事例報告からも16ミリフィルムの良さも出たのですが、メンテナンスですとか、利用の頻度とか、また映写ボランティアの後継の問題とかいろいろ出されました。同じようにご参加の皆様方から事前にいろいろご質問をいただきまして、事務局の方で質問事項を整理していただいて、すでに立見先生にお渡ししてございます。これからは立見先生からいろいろご助言いただいて、皆さんと学んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

#### 4) 立見客員教授からの助言

実は私が助言しようとしたことが2つの発表の中ではほとんど解決されているという風に今日は感じました。では、どこが解決されているのか、ということを含めながらお話を申し上げたいと思います。まず、16ミリ映写技術講習会の開催にあたって、やはり指導者をどう養成していくかということが大きな課題になっている。また指導者の高齢化も進んでいるので、それをどうしていったらいいかということも大きな課題になっている。先ほどの発表の中で指導者の講習会を実施して、その受講者が実際に指導に当たるというようなシステムを作っていってほしい。これは素晴らしい。それを県の単位でやるのが、ある意味では、視聴覚ライブラリーの職員研修の一環にもなるはず。ライブラリーの職員になったら、講習会が開けるような力もつけてもらって、講習会に参加していくということになるので、是非ともライブラリーの担当職員も自動的に入ってほしい。それを通してライブラリーの職員研修にしていければいい。





16 ミリ映写機操作技術講習会を盛んにしていくためには講師が必要だというところを解決していく必要があります。また、16 ミリ映写機操作技術講習会で操作ができる認定証を取得したいという人がどれほどこれから発生するのか、つまり映画会をしようと思う人、そういう人がこれからどれだけ出るのかどうか、そこが大きな課題になってきます。もちろん視聴覚教材を借りることで、その教材の貸し出し本数にも自動的に影響してきますが、映画を必要とするかどうか、そのニーズの喚起がこれからとても必要になってくる。借りたくなる教材をどれだけ用意するかが16 ミリ映写機操作技術講習会の参加人数を増やすところにつながっていくのです。

16 ミリ映写機操作技術講習会だけではなかなか人が集まらないということは、例えば16 ミリ操作の認定証を取るためだけの講習会の開催だと、その講習会に参加しようという必要感がない。今、群馬県で16 ミリ映写機操作技術講習会をやっているんですが、その講習会の中身として視聴覚ライブラリーとはどういうものであり、どういう教材が用意されているか、そういうものをしっかり知らせる講習会にしているかということになります。参加者がその視聴覚ライブラリーにある教材について知る、それもその講習会の中でやれるといいかと思えます。講習会をそういう中身にしていくとより一層、映画を利用する人が増えてくると思えます。

続いて、なぜ視聴覚ライブラリーの映画を借りて、それを通して学習をしようとするのか？ということになるわけですが、集合学習・集団学習をするためには、著作権のことをクリアしていないと使えないということになるわけです。そうすると視聴覚ライブラリー所有の映画はその著作権問題がクリアされているものであるということをしかり伝えることも重要だと思っています。従って、その講習会の中に著作権のことについてもやはり入れて欲しい。なぜ視聴覚ライブラリーが持っている映画が利用できるのかというようなどころも知らせると良いと思っています。

続いて、気になっているところが一つありまして、県の施策の中に視聴覚ライブラリー支援をどのくらいしているのか、これが重要になってきます。県によっては、それを縮小、あるいはやらなくなってきている。そういう状況が県の中にあるのですから、16 ミリ映写機操作技術講習会を開いて、映画をどんどん利用してもらおう。しかし、良好な映画、良い教材が用意されなければいけない。これが十分用意されるようになるのか、これは大きな課題になってくる。そういう教材が用意できるためには、県が応援しないことには市町村も予算付けしてくれないとなる。

私が助言しようと思ったことは、2つの発表では全て解決されているかと思っていますので、助言としてはそのくらいになります。

続いて映写機の故障あるいはメンテナンスについてです。これはもう、どこもしてくれない、となる。で、業者に頼むにもその業者もいるのかもわからない。という状況の中で、どうしていったらいいかというやはり、ライブラリーの職員がメンテナンスのできる力をつけないとできないと思っています。先ほどライブラリーの職員の方々に講習会のコーチになれるように頑張りましょうよ！と言った訳ですし、予算取りすることについても頑張りましょう！と言った訳ですが、もう一つ映写機のメンテナンスあるいは修理、あるいは保管についてはどうしてもライブラリーの職員にお願いするしかないと思っています。そうすると、県とすればその講習会も開いた方がいい。職員にお願いするとすれば、どうやって行ったらいいか、メンテナンスの講習会を開いて自らやっていくようにしていかなければ、そのこのことは解決できないと思っています。是非ともその講習会をライブラリー連絡協議会のようなところがやってもいいですし、県が主催してやってくれてもいい。それが職員研修の一環であればいいと思っています。

続いて、あるライブラリーが映写機をもう貸せない状態だというようなどころがあります。やはり映写機の相互貸し出しをライブラリーはこれからやっていったら良いのかと思っています。県の視聴覚センター・



視聴覚ライブラリーであれば当然県に借りに行けばいいわけですから、県に借りに行き、映画を上映できるような状況を作っているということも、これから必要になっていきます。映写機の技術講習会もそうですが、映写機の相互貸し出しもこれから進めていって欲しいと思っていますところ。

続いて、フィルムのメンテナンスをボランティアの方でやっていくということを経営的にやってらっしゃるということですが、それは是非とも継続してやっていただいて、おそらく職員だけではできませんので、ボランティアの方にやっていただく方策を見つけていく必要はあると思っていますところ。先ほど発表した2つのところはそういう人をちゃんと見つけていって欲しいということですので、とてもいいと思っていますところ。

もう一つ、フィルムの廃棄の話があったのですが、廃棄についてはもう利用されないとか、残しておく価値がないとか、そういうものについては廃棄作業を進めても良いかと思っています。しかし、フィルムの廃棄にあたっては全視連に届け出なくてはなりませんので、それを忘れないようにしていただきたい。さらに貴重なフィルムの保管ではメディア変換です。市販教材以外の自ら著作権を有する自作教材などしかできませんので、それらの貴重なものについてはメディア変換して残しておく。デジタル化です。デジタル化するにあたっては大変なお金がかかるということになります。しかし貴重なものは残さなくてはならないし、デジタル化することでまた利用しやすくなります。そのところはよくフィルムの内容をよく吟味して進めていただければと思っています。簡易な方法はなかなかないのです。一番簡易な方法というのは映写室で映写したものを隣からデジタルビデオで撮るという方法です。しかし結構難しいのです。けれども、簡易にできることはできます。そしてデジタルビデオのコマ数がちょっと違いますから、そのデジタルビデオで撮れるコマ数のもので撮影し、録音していけば良いでしょう。テレシネを使えば良いですけれども、テレシネを使わない場合にはとりあえず、この方法でできるかと思っています。

いろいろ質問をした中から答えていった訳ですが、私がいろいろ調査をしてみて、非常に視聴覚ライブラリー存続が大丈夫なのかという厳しい状況にあることは確かです。なぜかという、やはりあまり支援がされていない、財政的な支援が非常に弱いというところが一つ。それと先ほど言った視聴覚教材を借りようとする、そのニーズが高まっていないというところが二つ目です。三つ目は良質な映画、良質な教材があまりないという状況が出ているというところ、その三つを解決していかないと、今後うまくいかないのではないかと、私からの助言です。

以上とさせていただきます。よろしくお祈りします。

○進行：丸山副専門委員長

先生、ありがとうございます。一つ一つのこちらからの質問に丁寧に答えていただき、ご助言と対策、方策を導いてきていただいて、私自身も勉強になりました。本当にありがとうございました。

## 5) 質疑

○進行：丸山副専門委員長

それでは、立見先生もお迎えしておりますので、この場で参加者の皆様からご質問がありましたら、もうちょっとここが聞きたいとか、先ほどの事例のお二人の発表のことについてでも結構ですが、ございましたら、チャットまたは挙手ボタンでお知らせいただけたらと思います。皆様いかがでしょうか？

それでは最初に私から立見先生にお尋ねします。16 ミリ映写機のメンテナンスの講習会ですが、操作技能の講習会はわかるのですが、映写機のメンテナンス講習会というのは例えばどんな事例と言いますか、どんなやり方があるものかお聞きします。

○立見客員教授

やっているのを聞いたこともないし、見たこともないのですが、今後それが必要になってくるかと思っていますので、それを誰がするかということになると職員しかいないんです。その講習会を例えばボランティアがやってくれるのであれば、その講習会を開いてからやってもらおうと良いと思っています。自分のライブラリーでその講習会をやっても良いし、全体でやっても良いとなると、やはり県がやるしかない。連絡協議会というようなところでやってもらって職員が力をつけていくというようにしていくしかない。職員がその力をつけばボランティアの方が来た時に指導ができる。今提案しているのはそういうところ。

○コガタ社 中川氏

コガタ社の中川と申しまして、東京都文京区で個人事業主しているものです。宣伝になってしまって申し訳ないんですけども、私自身は今 16 ミリ映写機のメンテナンスというのを一つの仕事にしております。ただ、私自身は技術が高いわけではないので、他の技術者の方々と連絡を取ってその助言をいただいたり、私のところに来ていただいて見ていただいたりというような形をやっています。一番よくありがちなエルモ映写機のゴムローラーがベトベトしたりするものとか、弊社のサイトで販売をしております、ちょっと高いんですけども、ご要望いただければその交換品というのをお出しすることができます。私自身が知っている方というのは、例えばいろんなところの映画ホールの映写機のメンテナンスをやられている方もいらっしゃいます。けれども、そういう方というのは教育の分野の視聴覚教育センターさんと繋がりがなかなかなかったりして、例えばどういう映写機を治したいというニーズがあるのかとか、どういう点に困っていらっしゃるのかとか、あとは料金的なところ、ご予算的なところが問題なのかとか、そういうことがなかなかわからないということもあると思います。また、なかなか情報収集がうまくいかなかったりして、その辺を私がつなげられないかなんかということは常々思っていて、逆に技術がある方を何人かは知っているの、何かのお役に立てないかなんか思っております。もし何かフィルムについても、困っていらっしゃる事があれば、何かしら案をお伝えできるようになりたいなと思っておりますので、皆様から困っていらっしゃる事とかをお聞きできればいいなと思っております。

○進行：丸山副専門委員長

どうもご発言ありがとうございました。社会教育と学校教育を視聴覚センター・ライブラリーで担当しているので、そこにいらっしゃる業者さんはわかるのですが、それ以外の業者さんとは、なかなかネットワークがなかったの、今日ご発言いただいて、私も失礼ながら初めて分かりましたので、ありがとうございました。せっかくコガタ社様がいらっしゃっておりますので、もしフィルムのメンテナンスで何か困っていることがございましたら、遠慮なくお知らせいただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

チャットでありがとうございます。館林市立図書館様からまさに今お話があったゴムの問題ですね。

○コガタ社 中川氏

もしよろしければ検索をしていただけると出てくるかと思っております。お電話いただいても、メールをいただいてもどちらでもいいです。結構ゴムは劣化もありますし、汚れます。ゴム自体を交換することはできるんです。けれども、逆に映写機の中に残ったゴムを取り除くことが結構大変です。

○進行：丸山副専門委員長

今日はまた新しいネットワークができたかなんか思っております。他に映写機のことでも結構ですので、何かございますか？

○立見客員教授

立見ですけれども、もうメーカーが映写機を生産してないんですね。で、部品ももう残っていないというようなことになっていた時に、映写機の修理はある意味不可能な状態になっている。何ができるかという持っている映写機の部品を使って直すしかない状況なのです。そうなるも持っている映写機をいかに大事に使っていくか、そして壊れたら部品取りとして、それだけをしっかりとっていくということをしていく。視聴覚ライブラリーの持っている映写機を全体で共有しているということにしていくという状況になっています。講習会を通して、そういうところも連携ができるようになるといい。それをその講習会の開催を薦める理由になっていますので、





今持っているものを大事に使うしかないのだ、今やそういう時代になっています。どう大事に使っているかを全体で考えていくべきです。先ほど言ったように、ゴムは私のところはできるよということになると、じゃあ、そこは頼もうとか、部品じゃなくてゴムの交換できるというようなことを全体で共有して、全視連全体でそういう情報をうまく集めていって大事に使っていく。そういうのを見つけていく必要が今ある状況になっていますので、そのシステムを作りたいなと思っていますところでは。

○進行：丸山副専門委員長

立見先生、ご発言ありがとうございます。チャットの方に茨城県さんと岩手県さんからご投稿があります。どうもありがとうございます。

○岩手県

岩手県教育委員会では本県協議会でメンテナンスの講習会を検討しております。もし開催した場合、コガタ社さんが講師として本県においていただくことは可能でしょうか。また、メンテナンスの動画を撮影し、ライブラリーに共有したいと考えております。いかがでしょうか。

○コガタ社 中川氏

ありがとうございます。先輩とかにちょっと聞いてみます。そういう機会があれば、ぜひ何か生かしていただければありがたいと思いますし、先ほど先生がおっしゃったように、あと宇都宮のことは、以前別の人からちょっと聞いたことがあります。部品取りで機材を取っておられるというのはすごく大事なことで、先生がおっしゃられたように、もうどこもメンテナンスを元々映写機を作った会社はやっておりませんので、うちも部品取りをしておりますし、私の知っている方も部品取りをしていて、それを活かすところを知りたいということがあります。例えばここが調子が悪い、ベルトの調子が悪いとか、ローラーがベタベタするとか、そういうことが分かれば、できる可能性があると思うので、そういうネットワークをこの中でいただいたことはとてもありがたいことだと思っています。ゴムの場合はオーバーホールではどの映写機でもゴムだけではない場合があります。

○進行：丸山副専門委員長

どうもありがとうございます。そういう講習会を動画に撮影してライブラリーで共有ということは可能なものなのでしょうか？

○コガタ社 中川氏

そうですね。本当にもっと高い技術を持った方に聞いてみます。やってくださるようであれば、その方を先に残す価値があると思いますので聞いてみます。

○進行：丸山副専門委員長

関連してなんですけれども、宮崎市立図書館様から北辰と映機で3台あります。光源ランプやエキサイターランプが多少のストックはありますが、本体の故障が修理できずに困っています。修理できればあと1～2台は使えるのですが、という投稿がございますが、コメントをお持ちの方いらっしゃいますでしょうか？

なかなか切実な問題で、どこでもあり得るところだと思っています。また、修理できる業者さんを紹介し合うとか、廃棄になった映写機を県の視聴覚センターに集めて、部品はストックしておこうとか、映写機そのものをストックしていこうということ、見直しを持ってやっているところでもあります。

○コガタ社 中川氏

宮崎市立図書館の方に、どんな状態かということをお知らせいただくことによって検討ができないこともないと思いますが、技術者の方がご高齢だということが問題になっているので、部品を持っていたり、技術を持っていたりしても、仕事をお願いできないということが一番つらいところです。情報をいただければ、



何かしら探してみてもやってみたいと思います。

○進行：丸山副専門委員長

懇切丁寧にありがとうございます。チャットの方に戻りまして、茨城県からですが、ライブラリーが各市町村からなくなっています。支援体制がないのは事実です。良質な教材がないかもしれませんが、価値ある教材がそれぞれの市町村に残っているのではないかと思います。教材の連携ができれば良いなと思います。という風な要望も入っていると思うんですけども、これに対して皆様いかがでしょうか？

コメントの通りだと思います。新潟県の生涯学習推進センターと言いまして、前の県の視聴覚ライブラリーが前身だったんですけども、そこに勤めていた時は各地域の視聴覚ライブラリーと教材の相互交流というか、誓約書を取って貸し出しするというのを一緒にやってみたこともあるんですけども、やはり県が中心になるのかもしれませんが、各地域の市町村にある教材そのものを掘り出していくということも非常に意味があることなのではないかなと思っております。

続々とチャットにありがとうございます。千葉市生涯学習センターの16ミリフィルムの維持管理に関わる話題でお声出せませうでしょうか。

○千葉市生涯学習センター

千葉市生涯学習センターです。よろしくお願ひします。本センターには昭和40年頃制作の千葉市の広報映画などが多くあるんですが、経年変化もあり、ビネガーシンドロームやフィルムの変形などが起きています。管理はエアコンの除湿機を稼働しているのですが、地下一階ということもあり、環境的に厳しいと感じますが、実際の湿度30から40%とか気温なら8度なんというのはとても難しいなというところですよ。よく40%とか50%と言われてはいますが、どう工夫されているのかを聞ければと思ひました。

もう一つは同じ頃のもので、ジップロックのようにチャック付きのビニール袋に入っていたものについては退色傾向はあるものの、匂いは問題ありませんでした。ネットで色々調べるとむしろビニール袋に入れないで直接入れる方が通気が良いという話もありましたが、こういう事例もあつたものですよから、皆さんどうされているか、参考にさせていただければと思ひて挙手した次第です。

○進行：丸山副専門委員長

具体的にありがとうございます。今のお話に対してコメントや実践などございますか？  
立見先生コメントございますか？

○立見客員教授

千葉市生涯学習センターの保管以上の保管をやっているところはないと思ひます。それ以上の保管はないと思ひるので、その環境は非常にいいわけですよで、その中で、ではどうしたらいいのか？というプラスアルファはおそらく生涯学習センターの方で考えていただくということではないかなと思ひます。おそらくそちらほどしっかり環境を整えて保管をしているところはないし、ビネガーシンドロームもちゃんとチェックされてるということになれば、もうそれ以上ないかなと思ひます。

他のところはとても厳しい状況です。こんなところに置いといていいの？というようなところにも置くような状況になってる。つまり置く場所がないんですよ。あつてもその置く場所を維持管理するのに非常にお金がかかって、また教材はどんどん増えていくということになると、あとはメンテナンスの中で劣化した状況のものを早く見つけるということで酢の匂いがしてきたらそれは隔離するというようなことをして、それを防いでいく。普段フィルムの状態を常にチェックしていくということが一番大事な体制になるかと思ひておりますので、環境はバッチリなので、あとはそれをその後どうするかということ。酢の匂いがしてきたら隔離ということが一番大事です。

○千葉市生涯学習センター

立見先生ご指導ありがとうございます。私どもの方はエアコンが故障してしまつて、湿度計を見たら80%とかということがあつたものですよから、危機意識を感じまして、いろいろ調べてみたら、今も60%ぐらいにしかならないんですけども、30とか40%って書いてある記事もあつたものですよから、質問させていただいた

次第でございます。参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○進行：丸山副専門委員長

全部を拾えないんですけども、延岡市立図書館様から映写機を廃棄扱いするレベルはどの程度でしょうか？という投稿がございますが、実際に廃棄扱いするレベルはどの程度か、具体的なところなんですけどもいかがでしょうか？県とかで何かガイドラインを持っているところはございますか？

また立見先生に振ってしまってすいません。お考えを聞かせていただけたらと思っております。

○立見客員教授

ガイドラインはないのですよ。さっき言ったように、とにかくあるもので頑張っていくしかないということになると、簡単に廃棄して使わないのではなくて、廃棄するのであれば工夫してうまく部品を取っておいてもらって、そしてそれ以外は廃棄でもそれは構わないけれども、それも大変です。機械自体は取っておくことが大事ななところなんです。廃棄してしまうのは簡単。置き場所がなければ廃棄するしかないけれども、例えば今使っている映写機があって、それを大事に使おうと思っていた時に、元の映写機の部品はそこに適用できないなら廃棄してもいいかと。そういうことで考えて部品で使えるかどうかを含めて、廃棄はそこで判断すれば良い。邪魔だったら邪魔でも部品として必要ならば廃棄しない状態でおくことは大事だと思います。先ほど北辰の3台について館林の方からあったのですけれども、群馬県ですので少し相談に乗ろうかなと思っているところです。

○進行：丸山副専門委員長

はい。ありがとうございます。それでは時間のある限り行ってみたいと思います。富山県映像センターさんから16ミリ映写機はこちらで修理などして使用しているのですが、テレシネ機の修理もできますでしょうか？という、これも全国各地でありそうな問題だと思うんですけども、テレシネ機の修理はどのようにされているか？情報お持ちの方いらっしゃいますでしょうか？

ちなみにコガタ社さんはテレシネ機の修理は可能なのでしょうか？

○コガタ社 中川氏

テレシネ機というのはエルモさんが出しているCCDカメラが付いたやつですかね？TRVは結構もう難しいですね。カメラの方が先にダメになってしまうので、ランプがついたりしていても、カメラがもう修理できず、同じものがない、同じものにつけられないというような状態になっていることが多いです。なので、一応、以前ご相談を受けた時は申し訳ないんですけど、ちょっと難しくて同じ動くものと入れ替えていただいたという感じです。探してそういうことをしました。

○進行：丸山副専門委員長

なかなか難しいところだと思います。先ほど立見先生のお話にあった簡易的な方法を使って自分自身やったこともあるんですけども、知恵の出どころもあるかなと思います。

それではたくさん質問が出ていますが、今日せっかく東映の中鉢様にもお越しいただいているので、これまでのお話に何かコメントがございましたらお願いできますでしょうか？中鉢様いかがでしょうか？

今ちょっとマイクが調子悪いということで、またの機会がありましたら、中鉢様からお話をいただく機会がございましたらよろしくお願ひします。

今日のご参加ありがとうございます。いろいろなジャンルの方がこの会に参加されているので、知識だけではなく、知恵もいただいたなと思っております。時間が参りましたので、またチャット上にちょっと答えられていないところがありましたら、また答えられるようにしたいと思います。

それでは今日事例発表をしていただきましたお二人の専門委員の方々、そして最後にまた立見先生から一言いただきまして、このオンラインの交流会を終わりにしたいと思います。

## ○山本専門委員

視聴覚について問題点とかをいろいろな違う角度から見させていただいて、とても勉強になりました。やはり一筋縄ではいかないというか、様々なところでこういう形で、研修会でネットワークが広がったり、様々な視点が得ることができたり、というところで、今回のこの研修会はすごく意味があるものではなかったかなと思います。

## ○小柳専門委員

本日は大変お世話になりました。私ども栃木県視聴覚教育連盟で先日委員会があり、ライブラリー間の情報交換を行ったところですが、やはりどの市町も予算が難しく、私たち県の方も非常に予算取りが難しい状況になっている中で、ではどんなことができるかといった時に、横のつながりを保つというところも大切ですし、ライブラリー間で協力して一つの事業を運営していくということが大切だと考えていて、改めてその目的というか目標を会議の中で共有したところです。

それから、もう一つは視聴覚教育の意義というところを再確認をするというところで、先ほど茨城県さんの方でも市町からライブラリーがなくなっているというところも当然あるのかなというふうに思いますので、やはりその辺も視聴覚教育の意義というところがしっかりと押さえていく中で残せていけるというか、そういうところにつながっていけるのかなと。そのためにはやはり県内の中での横のつながりの中で、お互い情報公開しながら、視聴覚教育に対してその意義を理解した上で業務に携わっていくというところが非常に大切だということを改めて再確認していた次第です。こういった交流会の中で全国的な横のつながりができて、さらに視聴覚教育の効果というところを信じながら共通の目標に向けて頑張っていけたらと思っておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

## ○立見客員教授

私が一番大事に思っているところは、やはり視聴覚ライブラリーを利用しようと思う、そういうニーズの喚起、これが一番大事じゃないかなと思っているところです。ですから、視聴覚ライブラリーにある教材というのは著作権がクリアされた教材であって、集団学習に使えると、これが一番価値あるところなので、学校の先生もそうだし、社会教育に携わる方々もそういうことをしっかり知ってほしいなと思っているところです。さらにそのライブラリーの教材というのはとても大事になってくるので、その良い教材、良い資料を用意し、それをこういうものがありますよと広く知らせていく。それを忘れてはならないのではないかなと思っているところです。

もう一つがやはり、指導者の養成というところにも力を入れていきたいなと思っているところです。社会教育指導者、社会教育に携わるものとして、ライブラリーのをうまく利用して社会教育をやっているという、そういうところはとても大事になると思っております。今、私は群馬大学で生涯学習に関する講座を持っております。つまり、学生が社会教育士という資格が取れる講座を一つ担当しているわけですが、その中で大事なものとして、先ほど言った視聴覚ライブラリーを利用していこうという視聴覚ライブラリーはなんたるか、それを講義の中に入れていって、指導者を養成したいと思っているところで、今それもやっているところだと思っただけであればいいかなと思っております。

何分にも一番大事なのは講習会だと私は申し上げたわけです。けれども、今回のオンライン講習会というのはとても良い企画だったと思っております。

## ○進行：丸山副専門委員長

どうもありがとうございました。チャットを見ますと、皆様方からもこのような輪が広がっていけばいいと思っております。とか、同じような悩みを抱えていらっしゃるということがよくわかり、たくさん参考になりました。というコメントですとか、実際に貸し出された資料の情報も共有できたら良いという要望もごございます。皆様からお話があったように、今日の今年度最初のオンライン交流会をやって良かったかなと思ったり、それぞれインターネットのホームページ等ございますので、こういった資料の情報の共有もできたらいいかなと思っております。

実は今日、昨年度の全国大会の講師でもいらっしゃった坂井先生が幸いいらっしゃっておりますので、この会の最後に一言をいただけたらありがたいなと思っております。突然すいませんが、よろしくお願ひいたします。



○坂井先生（全視連講師、日本デジタルアーキビスト資格認定機構理事／岐阜女子大学特別客員教授）

今日は立見先生や事例発表された山本先生、小柳先生ありがとうございました。そこで、私が若干気になったところは、立見先生がご提案されている、16ミリを残すためにも16ミリだけではなくて、フロッピーディスクの問題もありますし、CDやDVDの形式の違いの問題もありますし、パソコンのソフトの問題ハードの問題もありますし、8ミリの機種によっても違うという問題があるので、私の夢としては広域でマイグレーションセンターというものを作って、現在の形式に変えていくということで、デジタル化はゴールではないんだと思うんです。デジタル化もどんどん変わります。今、私たちが使っている圧縮形式は30年後には残っていないと思われれます。現在の8ミリと同じようなことになると思います。そういうものを将来に残していく。私は地域に残っているものも、それから優秀映像教材選奨に関わらせていただくと、沖縄の瀬底島の笠の作品とか。それからハンセン病の教材が作られているという所に、心を揺さぶられるような作品も現在もできていると思います。地域に残っている視聴覚教材もそれから新たに作られるものも、いつかは形式が変わっていくということに対して、皆で残していくという先生のご提案を16ミリだけでなくやっていくと行政にも理解をされるのかなと思いました。



それから、著作権の話は著作権と隣接権と肖像権と個人情報と慣習の問題もあり、もう私は嫌になっております。けれども、そこにそんなものに負けないで地域の様々な良いものを残していくということに、私たちは向かっていかなければいけないというふうに思いまして、今日の3人の方々や皆さんのお話を聞いて、私自身勇気付けられました。

○進行：丸山副専門委員長

前触れもなく振ってしまいまして、また将来を見越したお話もいただきまして、本当にありがとうございました。今日は全国各地からいろいろな領域の専門も違う方が集まって、それがオンラインの良さでもあったなと思っております。今日出された要望ですとか、ご提案については今後の全国大会や第2回のオンライン交流会にも反映できたらいいかなと思っております。平日の午後にもかかわらず、70名を超える皆さま方にお集まりいただきましてありがとうございました。これで今回のオンライン交流会を終わりにしたいと思います。発表の先生方、そして立見先生、坂井先生、ご参加の皆様、どうもありがとうございました。

これでオンライン交流会を終わります。若干事前のアンケートで残った部分がありましたので、この辺また追加で質問があればお寄せいただければと思います。

2023年9月19日

## 第1回オンライン交流会 チャットの記録

14:54:11 開始 館林市立図書館 に 全員:

まさに、16c1のゴム劣化によるフィルム汚損で困っています

14:54:41 開始 館林市立図書館 に 全員:

激落くんで、汚損が一部改善

14:57:06 開始 茨城県視聴覚教育振興会 に 全員:

茨城県では、ライブラリーが各市町村からなくなっています。支援体制がないのは、事実です。良質な教材がないかもしれませんが、価値ある教材がそれぞれの市町村に残っているのではないかと思います。教材の連携ができれば良いなあと思います。

14:57:24 開始 岩手県 に 全員:

岩手県教育委員会です。本県協議会でメンテナンスの講習会を検討しております。もし開催した場合、コガタ社さんが講師として本県においでいただくこと可能でしょうか？また、メンテナンスの動画を撮影しライブラリーに共有したいと考えております。

14:58:13 開始 宮崎市立図書館に 全員:

宮崎市立図書館です。うちは、ホクシン1とエイキ2の3台あります。光源ランプやエキサイダーランプは、多少のストックはありますが、本体の故障が修理できずに困っています。修理できれ

ばあと1～2台は使えるのですが…。

14:58:50 開始 館林市立図書館 に 全員:

ゴム劣化の場合、必ずオーバーホールは必要ですか

15:03:24 開始 千葉市生涯学習センター に 全員:

16ミリフィルムの維持管理にかかる話題でもよろしいですか?

15:03:32 開始 館林市立図書館 に 全員:

オーバーホールのさいのベルトの調整は素人には無理と聞いていますが

15:03:41 開始 延岡市立図書館 に 全員:

延岡市立図書館です。映写機を廃棄扱いするレベルはどの程度でしょうか・・・

15:03:45 開始 富山県映像センター に 全員:

富山県映像センターです。16ミリ映写機はこちらで修理などし、使用しているのですがテレシネ機の修理もできますでしょうか?

15:04:32 開始 宮崎市立図書館 に 全員:

宮崎市立図書館ですが、1台は、リバースが上手くいかずにいます。修理は可能でしょうか?

15:10:35 開始 館林市立図書館 に 全員:

再生中にフィルムから白い煙がでて、フィルムが溶けた経験が。これはビネガーシンドロームです

15:13:18 開始 館林市立図書館 に 全員:

ビネガーシンドロームですか

15:14:18 開始 富山県映像センター に 全員:

エルモ TRV-16H です

15:16:54 開始 中鉢 裕幸(東映) に 全員:

マイク調子悪いようです

15:17:38 開始 中鉢 裕幸(東映) に 全員:

ありがとうございます。参考になりました。

15:20:07 開始 千葉市生涯学習センター に 全員:

7月に操作講習会を受講し資格をとった方(30代)が幼児向けの映写会を複数回実施していただいています。今日も多くのアニメフィルム、映写機、暗幕を借りに来ました。とても評判が良いようです。ありがたいですね。このような輪が広がっていけばと思っています。

15:21:08 開始 宮崎市立図書館 に 全員:

宮崎市立図書館の視聴覚担当になって16ミリ映写機を扱うようになったのですが、今日の研修は、初めての経験でしたが、皆さんが同じ悩みを抱えていらっしゃるがよくわかり、たくさん参考になりました。どうもありがとうございました。

15:23:49 開始 館林市立図書館 に 全員:

実際に貸し出しされた資料の情報も共有出来たらよいと思う

15:26:43 開始 コガタ社 に 全員:

教育映画の著作権について、より詳しく教えていただきたいです。